



つばめ農園おひさま便り

9

安溪貴子・安溪遊地

動物たちとおつきあい

阿東高原では、コシヒカリの収穫がたけなわですが、つばめ農園のイセヒカリの稲刈りは一〇月の予定です。畑ではキュウリ、トマト、ナス、ピーマンに続いて、カボチャやミョウガがとれてきました。まもなく大豆を枝豆で食べられるのではと楽しみです。干しておいたライ麦の来年度の種取りもしました。

今回は田畑に出没するけものたちとおつきあいの話です。

モグラは、なぜかトマトの畝に穴を明けるのが大好きで、今年はトマトの半分以上が青い実をつけたまま次々に枯れました。いろいろな品種の種を蒔いて四つの畑に苗を分散して育てているので、食べるには困りませんが。春先にはエンドウをやられました。モグラはミミズを食べようと穴をあけるのですが、その通路を通ってネズミもやってきて、サツマイモが毎年かじられます。今年の春はジャガイモ、そして玉ねぎも食べられていました。

モグラは振動が嫌いということで、カラカラという音が出る風車をあちこちに立ててあります。ペットボトルでカラフルな風車を作るのが農園主の安溪大慧（だいえ）の趣味で、畑に並んだ風車が回るのはかわいらしい光景ですが、馴れてしまつてあまり効き目はないようです。雑誌



脱穀機でライ麦の粒をはずして、
来年の種子をとる

で読んだ「正露丸」をモグラの穴に入れることも試みていますが、なかなか被害は減りません。やわらかな大豆の苗がおいしそうに生えそろうところ、畑の山に近いところの大豆の葉や茎が食べられているのに気づきました。ノウサギです。畑の山側にネットの垣をまわしました。跳びこえる力はあるつもりでこれで防げたようです。以前、冬に雪が積もったあと畑に行ってみると、大根の地上部分だけすっきり食われてありました。ネズミや虫たちと違う無駄のないノウサギの食べ方なら、なんだか許せる気持ちになります。イノシシには、サツマイモの芋が大きくなり始めた頃株ごとひっくり返されたりします。田んぼのお師匠さんのところでは里芋も毎年何



刈り草と発酵した馬糞をまぜて、
畑用の堆肥をつくる準備

度もやられて気持ちがいとおっしゃいます。また稲が実る田んぼを走り回られた時は、稲が泥だらけになって泣きました。イノシシは、集落全体の山際に垣をつけたり、夜中も点滅する光を置いたりして防ぎます。狼をずる人に誘われ、大慧が解体を手伝ってお裾分けをいただいたりもします。耕作放棄地がふえ、ことに山裾が耕地ギリギリまで森になっていて、イノシシもノウサギもキツネもタヌキも、そして所によってはシカやニホンザルも、森が「住み処」ですから、垣こそあれ美味しいものが目の前にあれば、食べたいだろうなと思います。「昔はイノシシ垣の向こうのスギやヒノキの人工林のところは草原だった

んだ。木を植えてしまつて、動物は出てくるし、田畑は日陰になってしまつていいことはない」とお師匠さん。こういった人工林の持ち主は、今では街にお住まいで、田舎で暮らす人の困りごととは届いていないのでしょう。

ここは、中国山地の西の端にあたり、ツキノワグマもやってきます。お師匠さんはニホンミツバチの巣箱を置いています。ネオニコチノイド農薬が撒かれるようになって、ミツバチの群れがほとんど居なくなるまでは、クマが蜜を食べに時々やってきたそうです。山裾の農舎ではいつもラジオをつけっぱなしにしています。たがいに不意打ちで出会うと事故になるので、いきなり驚かさないとが大切といえます。師匠は家の入り口の角でぼつたり出会ったことがあるけど、腹に力を入れて威嚇を持って、コラァッ!! と大声で言ったら引き返していったそうです。それをやらに怖がつて、行政はクマが出たら必ず殺してしまうから、クマとは静かにつきあうようにしているんだとのこと。

交換と贈与から地域資源の循環へ

前号に書いた、草集めの上手なSさんは、お金でなく収穫物での「支払い」という条件で定期的に来てくださいます。プレゼントとしてその時々農産物をさし上げながら、堆

肥をつくつて土石流の入った田んぼの地力造りをしたいと話していたところ、耳寄りな情報を下さいました。ご自分の愛馬が預けてある乗馬クラブの馬糞堆肥を使ってみませんかとのこと。さっそく軽トラックでいただきに行つてみたところ、この道五〇年というご夫婦によつて二〇頭の馬たちが大切に世話されていました。そこでは、おがくずと混ぜた馬糞を背丈よりも高く積み上げて発酵中です。積んで四か月ほどたったものは、直接畑に入れても害のない熟した堆肥になるので、秋野菜の準備をする近くの方が次々にもらいに来ておられました。舎飼の牛や鶏と違って、馬は草が主食で、反芻しないため馬糞の含む繊維質は多く、その堆肥は炭素とチッ素の比率(C/N比)が土作りに適度なものとなっています。そんな宝の山が、取りに来れるならすべて無料とおっしゃるのです。こんど畑にまいた馬糞堆肥の効果を踏まえて、調子がいようなら、つばめ農園の稲の収穫が終わったら、ダンブカーを借りて田んぼの土づくり役立つ馬糞堆肥をいただきにいかうと思っています。

(つづく)

(あんけいたかこ・あんけいゆうじ)

✉ y@ankei.jp
BLOG http://ankei.jp